

事案名	千歳市の事案（北海道1-1）
分類	生産・保有 廃棄・遺棄 発見・被災・掃海等処理
資料	<ul style="list-style-type: none"> ・ Intelligence Report on Japanese Chemical Warfare Volume [1] ・ 「化学兵器調査ノ件報告」昭和20年11月5日 [2] ・ 「化学戦資材ノ件回答」昭和21年3月9日 [3] ・ 「浜名湖に投棄された軍用ガスの処分について（通知）」昭和24年12月28日 [4] ・ 「各航空廠引渡目録」2/2 [5] ・ 「旧軍ガス弾等の全国調査結果報告（案）」資料1の2 [6] ・ 『北海道新聞』昭和30年3月22日・同夕刊 [7] ・ 『毎日新聞』昭和30年3月22日 [8]
資料内容概要	<p>終戦時に、海軍航空廠千歳工場には、イペリット爆弾217発もしくはイペリット3.7tが保有されていたとの情報がある。なお、終戦後、旧軍の各航空廠にあったイペリット爆弾は米軍の監督指揮により海上投棄されたといわれている。</p> <p>生産・保有情報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 資料によれば、終戦時に第41海軍航空廠（千歳・美幌）にはマスタード60kg爆弾217発が存在していたと記載されている [1]。 ・ 資料によれば、終戦時に、北海道千歳第41海軍航空廠には、6番1号爆弾217発が存在していたと記載されている [2]。 ・ 資料によれば、昭和20年9月2日に、北海道千歳第41海軍航空廠にはガス爆弾217発が存在していたと記載されている [3]。 ・ 資料によれば、終戦時に、第41海軍航空廠千歳工場には、イペリット爆弾装着用缶217個（内容量計3,689Kg）が存在していたと記載されている [4]。 ・ 資料によれば、終戦後の段階で、第41海軍航空廠千歳には60Kg1号爆弾217個が存在していたと記載されている [5]。 ・ 資料によれば、終戦時に海軍航空廠千歳工場にはイペリット3.7tが存在していたと記載されている [6]。 <p>廃棄・遺棄情報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 資料によれば、各航空廠工場にあった爆弾装填用缶入りイペリットは昭和21年8月頃までの間に米軍の監督指示により海中に投棄処分されたと記載されている [4]。

発見・被災・掃海等処理情報

- ・資料によれば、昭和30年3月14日、米軍千歳キャンプ第3基地野外集積所で集積弾薬の自衛隊への引き渡し作業の一部として前期弾薬集積所から掘り出した空ボンベを作業員が洗浄していたところ、残っていた液の糜爛性ガスにより作業員20数名が被災し、目が見えなくなったり呼吸困難、火ぶくれの症状があらわれた。作業を手伝った自衛隊員約10名も軽いガス中毒を起こしたと記載されている〔7〕〔8〕。

なお、記事の中では毒ガスが旧日本軍のものであるのかどうかについては記されていない。